






四月の俳句

(2 0 2 2 / 0 4)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
14	8	1
）	）	）

4月の他の別名

陰月（いんげつ）・卯花月（うのはなづき）・鳥來月（とりくづき）・花残月（はなのこりづき）・清和月（せいわづき）

（宇佐美保幸）メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

桜咲くあと何回の桜かな
さくらさくら観光バスの爺婆や
ド演歌だ夜桜蝶々桜咲く

誰しもに言い分ありて木瓜の花
木瓜咲くやブログ投稿忙しく
シクラメン小椋佳を懐かしむ

四月かないろいろ諦め前を向く
春が好き窓を広げて朝が好き

花ながれ我もながれてあの世かな
宇宙論花を眺めて絵葉書に
しんじつを求め無駄も花の闇
紙の花ふらせ絶唱冬美かな
花月夜シャンパングラス夜の街
花の下巡査の視線厳しけり
大宇宙寿命はあるか花びらも



過去未来今を生き抜くさくら八重
認知症誰が苦しむ八重桜
八重桜重い今日あり明日もあり

おだまきやくよくよするな空を見よ
越辺川からし菜の花群れをなし

恋雀遍照金剛南無大師
靖国の鳥居も昏れて鳥の恋

春の空地にはネモフィラ合体す
春の猫寝姿写され抗議する
房総に天然ガスふき長閑なり

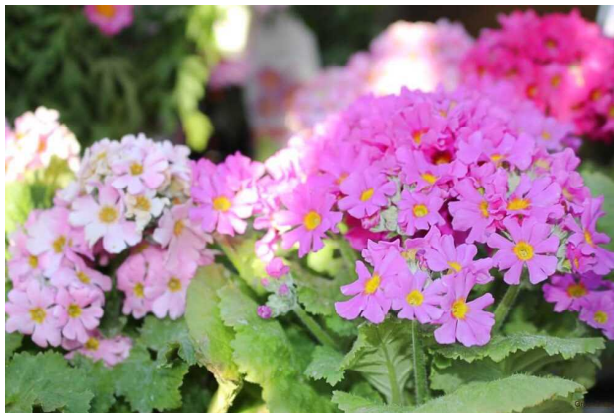
しろつめくさ今咲きみちて越辺川
クリムソンクローバー何を供養か一面に



春昼の人出巢鴨の四の日や
二十分集中春昼の理髪店
春の昼キツチンカーに列なして

桜草誰のためにか七変化
数秒の球形時間しゃぼん玉
息吹いて息をぶつけてシャボン玉
飛べ飛べ飛べどこまで飛んでしゃぼん玉
子らの興うつりて空にシャボン玉

パソコンの書体を変えて春の闇
ひたすらにただキーボード春の闇
パソコンのジャズボーカルに春の闇
自販機の明かり気怠く春の闇
じつと聴くグリーングルド春の闇
不条理の政治渦巻く春の闇
春の闇ラインやりとり絵文字かな
体力が落ちていらつく春の闇



ジャズドラムピアノニッシモに飛花落花
飛花落花車に轆かれその未来
人疲れ何かに疲れ花吹雪
古典的都市伝説の花吹雪

桜散る愚直に生きて桜散る
パックして桜散る夜過ぐす人
桜散るその夜の夢はあの世かな
散り際の花の覚悟を見習って
桜散る海に散りけり瀬戸の島
散りゆけば見る影もなく花の屑
善悪を全て丸めて花筏
散る条理わかりはすれど桜散る
こころざしどこへ埋めよう桜散る
今もなお青江三奈好き桜散る
わたたくしは地球と不仲桜散る



宇宙までらせん階段蝶が舞う
見目などはよくも悪くも蝶は蝶
喜寿となり庭に時々紋黄蝶

子育ては何を犠牲に竹の秋
亀鳴くや難聴となり聞こえざる
リベラルの胡散臭さや亀が鳴く

青空に吸い込まれたし花水木
花水木裸婦像通り淡くゆれ

春の蚊や領空侵犯スクランブル
くりくりと昔の子供葱坊主
農家食堂によきによき伸びて葱坊主

寅さんの嘆きに触れて山笑う
古着屋に客足絶えず山笑う
猪が子だくさんなり山笑う



山笑うそこに最強ダニもいて

花前線北方領土とどいたか
気づかれず気づいてほしい楓咲く

フリージア夜池袋怪しけり
藤咲くややるべきことは淡々と
藤棚や地球引力まさにより

昭和の日昭和育ちの貧乏性
昭和人はともあれ昭和の日
時効なき私の昭和よ東京へ
昭和の日ブリキの玩具懐かしく

島々に流木多く四月尽
四月尽縄文土器に上り窯
制服も少し汚れて四月尽
春果ての歯磨きの味ほろ甘し





モーロク俳句

モーロクし難聴となり四月馬鹿
モーロクし四月の時計残酷に

花時もサテイ気怠くモーロクす
モーロクし花の匂ひは薄くなり
モーロクし花の上なるあの世かな

さくらさくらぼんやり死んでモーロクし
モーロクし若者となりさくら見る
モーロクし行く先どこか桜咲く
桜咲く人生百年モーロクす
モーロクは酸化と糖香桜咲く
モーロクしさくらさくらとつぶやけり
モーロクし桜の蕊も楽しみて
さくらさくら昭和は遠くモーロクす



さくら東風おまけのやうにモーロクし

モーロクし来年会えるかライラック

モーロクし相思相愛春紫苑

モーロクし記憶の縁をほたるいか

モーロクし人間嫌い木瓜の花

モーロクしこれからのこと春キヤベツ

モーロクし脳味噌洗う春キヤベツ

モーロクししだれ桜で首つりを

モーロクし欲得もなし花疲れ

モーロクし花に見飽きて花浴びる

桜散る愚直に生きてモーロクす

散るさくらモーロクすれど時惜しむ

散るさくら時惜しむごとモーロクす

残る花モーロクすればひとしおに



逸脱とモロクすれば桜散る

モロクしされどジャズ聴き桜散る

モロクしこの世さ迷う飛花落花

花は葉に吾はモロク進みけり

花吹雪浴びてモロクあの世かな

モロクしすべてモノク口花吹雪

モロクしないものねだり花筏

花冷のモロクすれば失くす傘

花冷や瞼は古ぶモロクし

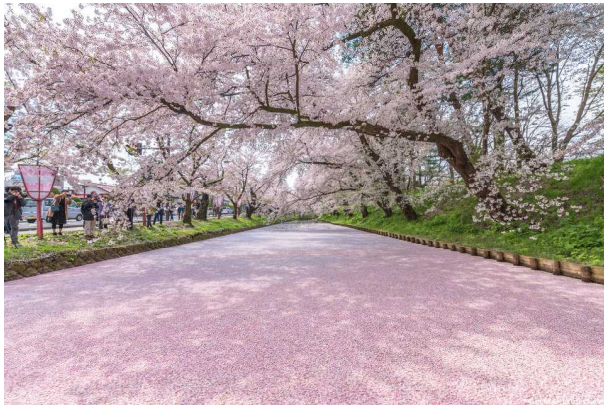
モロクし目がくらむかな山吹に

山吹や安寧祈りモロクす

モロクし一日無聊蝶の飛ぶ

空腹が蝶を無残にモロクす

蝶舞うてモロクすれど蝶の夢



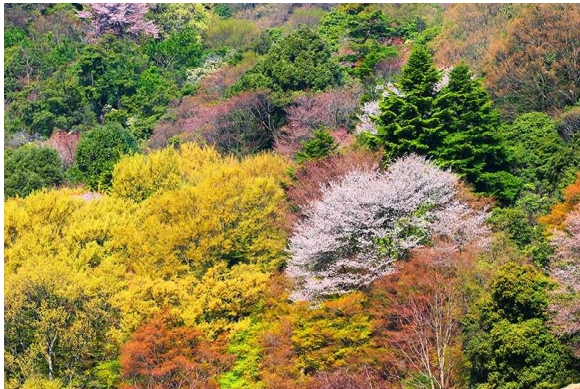
モーロクし春愁の顔かわりなし
モーロクし指の深爪春愁

春よ春モーロク一人野を歩く
モーロクし今日の果報は春の雨
モーロクし死ぬための家春の家

モーロクし口約束や山笑ふ
モーロクしひとり旅無理と山笑う
山笑ふモーロク人を隔てけり
モーロクし死は馴れ馴れし春の山
モーロクし何に極まり山笑う

あちこちに躑躅が咲いてモーロクす
つつじ咲くモーロク頭忙しき

モーロクし寝返りばかり春の闇
消えていく記憶モーロク春の闇



モーロクし百鬼夜行の春の闇
まんぼうを見てモーロク春の闇

花大根浮世ばなれやモーロクし
大根の花も花なりモーロクす

モーロクしもうひと踏ん張り残る花
モーロクし赤羽朝酒紙風船

モーロクし仏と拝む葱坊主
葱坊主埒なき夢やモーロクし

モーロクし転生ここに春落葉
モーロクし欲ばり過ぎて満天星や

モーロクし妄想あまた月朧
モーロクし吾の脳みそ朧月
朧の夜モーロクすればくねり道



モーロクし思い出紡ぐ春惜しむ
モーロクし今日もカツ井春がゆく
モーロクし鬱積屈折春逝かん

モーロクし飲み込み注意昭和の日
モーロクし団塊世代昭和の日
モーロクし国歌忘れて昭和の日

四月尽何はともあれモーロクし
モーロクし易きに流れ四月尽



たべもの俳句

合わせ味噌溶いて味噌汁桜どき

背を伸ばすもっともっととアスパラや
アスパラを軽く炒めてみどり愛で
アスパラも彩り変化ビオレッタ
アスパラをたこと合わせてごま和えに
アスパラの鶏照り井で緑食う
アスパラの味噌汁作り七味ふる

「こねつけ」の味噌の香りや春の昼

春キヤベツごまだれあわせサラダかな
春キヤベツ梅肉炒め牛肉と
春キヤベツピリ辛炒飯ヘルシーに



ブラツクの苦き珈琲桜散る
花疲れブラツクコーヒー口苦し

空豆をさつと炒めてほつくほく
姫皮にごまみそ味のあえごろも

冷凍の唐揚げチンと春の朝
おむすびに漬物添えて春遍路
しよつぱき竹輪きんぴら遅桜

桜鯛瀬戸の浜焼きこもかぶり
鯛ご飯土鍋もくもく匂いけり
渦潮にもまれもまれた桜鯛
春の海笠岡朝ラー鶏スープ

露を煮るアサリのうまみしみ込ませ
クレソンを添えし一皿野辺の風
レタス好き吾は青虫レタス喰う



桜漬しあわせ合わせ箸休め
穀雨には醤油と辣油焼餃子

山笑う冷凍うどん湯にほどけ
スライスし春のトマトは尖りをり
草餅や記憶抜け落ちモロクす
アボガドで鮪を和えて菜種梅雨

春風やしやぶしやぶしやぶと羊肉
朧夜に七味たつぷりそばを食う
朧夜のラーメンラー油たつぷりと
炒り玉子三色丼に朧の夜
水割りで沈黙朧月夜かな

浅草で春の憂ひをカツ丼で
あんパンを買って古書店昭和の日
春愁はあんパン一個そのくらい
ゆく春や独り料理のカレーかな





